

みんなつまずく5年生の「割合」



ウェブサイト rosinante.jimdo.com
 メール mail_rosi@ybb.ne.jp

5年生で習う算数の「割合」では多くの子がつまづきます。計算や図形など他のテストに比べ、平均点が格段に落ちます。なぜでしょう？

1月ごろに
習います



割合 = くらべる量 ÷ もとにする量

割合とは、もとにする量を1(10割、100%)としたときのくらべる量の大きさのことです。割合、くらべる量、もとにする量のいずれかを求めさせる問題が出ます。例えば

Q1 バスの定員は60人で、定員の80%の人が乗っています。何人乗っていますか。



近くの小学校では「□□の○%」「□□の○倍」など「の」がつく言葉(□□)を探させ、「その言葉がもとにする量です。ノモトさんとおぼえましょう」と教えるそうです。上の問題では「定員の80%」の定員(60人)がもとにする量になります。そして、下の図を利用して式を立てさせるのだそうです。つまり



$$\text{くらべる量(乗っている人数)} = 60 \times 0.8 = 48$$

ふーん...



では、次のような問題ではどうでしょうか。

Q2 去年3000円のジーンズを今年は3割引きで売っています。今年の値段はいくらですか。

Q3 町の人口のうち15%が10代の人です。10代的人是750人です。町の人口は何人ですか。

上の教え方をされた子どもたちは「□□の○割(%)」を探しますが、見つかりません。Q2では、「3割引」の直前にある「今年(の値段)」をもとにする量としたところですが…。もとにする量とくらべる量の区別がつかないまま式を立てても結果は理まかせです。

身の周りの様々なできごととは様々な言葉で表現されます。いつもノモトさんが教えてくれるわけではありません。立式の近道にみえるくもわの図も、解決を形式化するだけで、割合の理解にはむしろさまたげとなるでしょう。

ロシナンテ英数塾では 子どもたちに色々な問題を読ませ、

「□□の○倍は△△」と言いがえる練習をくり返します。

Q2は「去年の0.7倍は今年」。Q3は「町の人口の0.15倍は10代」となり、
 そして $3000 \times 0.7 = (\text{今年})$ $(\text{町の人口}) \times 0.15 = 750$
 と、そのまま正しい式に置きかえることができます。

へーえ...

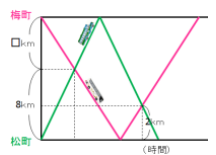


言いがえがうまくいかなければ何度でも読み直させます。すると、「今年の0.7倍は去年」ではおかしいことがわかってきます。これでは去年の方が安くなってしまいうからです。

文章題が苦手な子は、問題文を言いがえることができません。子ども自身がよく□にする「意味がわからない」状態だからです。この難局を突破するには、練習しがありません。正しい方法で問題文の意味をつかむ力をつけるしかないのです。

<まとめ> 割合に限らず、算数で大事な力は「置きかえる力」だと考えます。問題文を

- ① 別の言葉に置きかえたり
- ② 図やグラフに置きかえたり、表に整理したり
- ③ 出てくる数字を簡単な数字に置きかえて考えてみたり
- ④ 解いたことのある似た問題になぞらえたり…。



これらが置きかえる力です。これらの作業を通じて問題の意味を正しくつかんだ上で式を立てれば、正しい答に行きつきます。

ロシナンテ英数塾では置きかえる力をきたえて、実社会で通じる問題解決力を養います。

ロシナンテ英数塾 補習から受験まで
 電話 096-389-5706 受付 午後4時-
 長嶺東4-3-3 講師 別所裕二

どっしり



時	曜	月	火	水	木	土	日
4:00							
5:00							
6:00				個別			6:00
7:00						7:00 中2	中3
8:00		中1	中2	中3	中1	~9:00	~9:00
~10:00							